

『人権教育』

## 「幸せ装置」の3つの力と人権教育

平成 29 年 8 月 8 日 14 : 00 ~ 17 : 15

はじめに

- 未熟な哺乳類＝人間の幸せ戦略

### 1 「未熟＝障がい」を克服する幸せ装置

- 「社会」という名の最大の発明品（「適応と開発」、未完成）
- 「社会」の2つの要件（①つながる ②変える）
- 人権は社会を支える基本ルール（幸セルール）

### 2 社会化・文化化と三角形の鳥居

- 「社会」への旅⇒一人前になる（人生の4分の一を費やす）
- 「幸せになる力」は3つある（学力・社会力・自己肯定力）
- 人権①＝ひとなる権利（学習権） 学校こそ人権装置
- 「3つの力」の関係と教育実践：シャドウカリキュラム

### 3 「社会という幸せ装置」は変化し、充実し続ける

- 「つながる」本能と人権②＝ひとである権利  
多様性の承認 幸せの配分
- 「同質原理」の学校における「異質原理」の組み込み
- 人権教育は自らの障がいに気づくことから始まる
- 言語の差異性とコミュニケーション

### 4 人権座標を多様な人間関係に当てはめる…

- ①「人はみんな違っていい！」のだろうか？：子どもの人権
- ②「女の脳」と「男の脳」の総意と協働：性別と人権（LGBT論）
- ③ キャリア教育と幸せキャリア：貧困と人権
- ④ 年齢と人権：高齢社会・都市社会と人権思想
- ⑤ 絵本から学ぶ
  - 『あのとすきになったよ』『わたしはひろがる』
  - 人権は法律用語ではなく教育理念だということ

おわりに

社会教育の真の課題について